

## 日本学術会議化学委員会（第24期・第2回）、化学企画分科会（第24期・第1回）合同開催 議事要旨

日時： 平成29年12月27日（水） 17:15-18:15

場所： 日本学術会議5階 5-A(1) 会議室

出席者：相田美砂子、阿尻雅文、加藤昌子、君塚信夫、菅原洋子、関根千津、茶谷直人、所 千晴、中村栄一、渡辺芳人、岡本裕巳（スカイプ）、酒井 健、高原 淳

欠席者：橋本和仁、川合眞紀

事務局：桑川参事官、高橋参事官補佐、駒木大助

（敬称略）

### 議題および議事：

#### 1. 前回議事要旨の確認

- ・変更なく了承された。

#### 2. 役員の確認、新委員の紹介

- ・前回会議で役員は決定、紹介済み。

#### 3. 第23期の活動報告

- ・高原先生に午前中の化学委員会合同分科会で説明いただいた。報告資料、資料5を参照のこと。

#### 4. 第24期の活動方針

##### 4-1. 情報科学との融合による新化学創成小委員会について

- ・小委員会設置について阿尻委員より説明がなされた。AIが社会を動かす形で世の中が進んでいる。ものづくりが経済を支える重要な領域で、そこにAIがどうはいつていくのかを考えていく必要がある。出口は産業がやっているが、どういうものをつくっていくのか、どのようにつくっていくのか、をここでは考える。教育の姿も変わってくる。それらを議論する場を設置し、提言などの形でまとめていきたい。
- ・（渡辺委員）新しい小委員会は分科会の下につくるのか。
- ・（阿尻委員）外部に開いた形にすれば、化学委員会以外の専門家に入ってもらえることができ、議論を進められる。その意味で小委員会がいいのではという話であった。
- ・（事務局）小委員会の募集については、必要な先生に委員から声をかけていただき、委員長名で参加を依頼する。
- ・当該小委員会の設置は承認され、幹事会に提案することとなった。
- ・（渡辺委員）連携委員以外の先生も定数に入るのか。

- ・(事務局) 入る。ただし旅費は支給されない。
- ・(加藤委員長) 小委員会委員長は第1回会議で決めるが、委員長は阿尻委員にお願いしたい。
- ・(渡辺委員) 現段階では阿尻委員は世話人の位置づけになる。企画委員の先生は全員入ってほしいが、多すぎると定数コントロールが大変なので、メンバーにならずとも、参加するというスタンスでどうか。
- ・(相田委員) 情報学委員会ビッグデータ分科会に入った。次回の委員会で紹介したい
- ・(阿尻委員) 違う視点から参加してもらえるとありがたい。
- ・参加を推薦したい先生がいる場合は阿尻委員に連絡する。

#### 4-2. 分子研所長招聘会議について

- ・(加藤委員長) 来年5月30日と日程が決まったので、内容を決めていく。ここでも意見をだしてもらえればと思う。
- ・(君塚幹事) 化学分野の参照基準検討分科会は川合先生が委員長であるが、原案がほぼできあがった。日本化学会にもコメントを求める。日本の学士はこれが必要、というレベルを社会の目からみたものにする。分子研所長招聘会議の中でシンポジウムを開催し、意見を伺いたい。シンポジウムには企業もでてくるので、その意見も取り入れた上、化学分野の参照基準検討分科会の報告として出す予定。
- ・(渡辺委員) シンポジウムは二部構成でどうか。AIを第一部として。  
⇒委員長が、分子研所長招聘会議幹事と相談し、提案を決めていく。
- ・(君塚幹事) シンポジウムをどう行うかについて、日本化学会にも諮る予定。
- ・(相田委員) 他の分野では、作成された参照基準どのように使われているのか  
⇒分科会で調べる。
- ・(菅原委員) 高大連携とかかわるので、高校の教諭の関心は高い。指導要領に影響は与えると思う。
- ・(相田委員) 今後、AIなどが浸透すると化学教育方針もさらに変わる可能性があるのではないか。
- ・(中村委員) 変わる可能性はある。むしろ化学教育方針が長年変わっていないのがおかしい。

#### 5. その他

- ・分科会議事録は駒木さん宛て、加藤委員長にccで提出する。
- ・分科会を開催する場合は、開催1か月前に議題を事務局に提出する。23区外での開催では旅費は支給されない。
- ・分子研所長招聘会議も予算は決まっているので、参加者が多いと問題が出るかもしれないと指摘があったが、岡本先生が、分子研として予算についてはできる限りの努力をする

所存であると回答された。

- ・ 招聘会議の機会に開催する研究会の申請はなるべく早くお願いしたいと岡本先生より要請があった。委員長より、時間に余裕をもって計画をたててほしいと指示がなされた。

以上

関根(住友化学)記